



小田原市立芦子小学校学校だより



あしこだより

令和7年度2月号
発行者:石井 美佐子

進んで考え学ぼうとする子・仲間と関わる子・たくましくチャレンジする子

2月も下旬に入り、少しずつ春の兆しを感じる今日この頃。学校の紅梅の花も満開になりました。小田原市では梅まつりが開催されていますが、皆様はお出かけになられましたでしょうか。

さて、令和7年度も残すところあと1月あまりとなり、6年生は卒業に向けて、そして1~5年生は次の学年に向けて、一日一日をそれぞれに過ごしています。大変なことや嫌なこともあったけど、振り返ってみたら楽しかったな、いい思い出もできたな、という思いをもって、次年度へ進めるよう職員一同努めてまいります。



地域の皆さんに見守られ

2月8日には小田原市ではあまり経験のないようなたくさんの雪が降り、大雪警報が発表されました。雪は夜にはやみましたが、気温が低いいため、明朝登校時に路面が凍結する心配もあり、安全を期すため、登校時刻を2時間遅らせる措置をとりました。ご家庭や地域の皆様には、ご理解・ご協力いただき、ありがとうございました。9日の朝は、普段より多くの保護者の方が、子ども達の登校に付き添っていただきました。また、学校の正門前にお住いの方が「子ども達が通るのに危ないからね」と、横断歩道の雪かき(氷かき)をしてくださいました。大変ありがたかったです。そして、毎日子ども達の登校を見守ってくださっている「見守り隊」の皆さんも、登校時刻にあわせて、子ども達を見守ってくださいました。雪の日だけでなく、日頃からこうして子ども達が安全に生活できるように、たくさんの方にお力をいただいています。この場をお借りして感謝申し上げます。



先日、わかあし級の5年生児童2名と担任と一緒に学校周りのごみ拾いにでかけました。5年生は総合的な学習の時間で「地域貢献」をテーマの一つに取り組んでいるのですが、わかあし級の子ども達も「何か地域のためにできることをやってみよう!」と、地域のごみ拾いに出かけることにしました。これまで3回出かけましたが、地域の方から「えらいね」「ありがとう」と声をかけていただくことができました。褒められたいからごみ拾いをしている訳ではありませんし、ゲーム感覚の所も無きにしても非ずなのですが、「ありがとう」と言われることはやはり嬉しいのではないかと思います。少なくとも私は嬉しかったです。自分たちの活動を地域の方から認めていただく経験は、きっと子ども達の中にも残っていくと思っています。

学校運営アンケートの結果から

保護者の皆様におかれましては、学校運営についてのアンケート調査にご協力いただき、ありがとうございました。126のご家庭から回答がありました(回収率35%)。この紙面で結果の全てをお伝えすることは難しいので、肯定的な評価が多かった項目と、少なかった項目をそれぞれ5つ挙げました。全ての項目については学校HPに掲載しますので、併せてご確認くださいませ幸いです。

なお、欠席等で回答していない児童もいたこと(回収率85%)、そして全てのご家庭の声を反映したものではないため、あくまで傾向としてみていただければ幸いです。

【肯定的な回答割合の高かった項目】

	児童の回答	割合 (%)	保護者の回答	割合 (%)
1	先生の話や指示はわかりやすい	94.4	お子さんはルールを守って登下校している	98.4
2	先生はよく話を聞いてくれる	94.1	学校は、お子さんが友達と学び合う授業づくりに努めている	93.6
3	楽しく学校に通っている	93.4	お子さんは、楽しく学校に通っている	89.7
4	自分から「ありがとう」「ごめんなさい」ということができている	91.7	学校は、お子さんや保護者が相談しやすい体制を整えている	89.7
5	先生や友達の話をよく聞いている	91.2	学校は様々な人・もの・ことと関わる体験活動の充実に努めている	88.9

【肯定的な回答の割合が低かった項目】

	児童の回答	割合 (%)	保護者の回答	割合 (%)
1	自分の考えを伝えるために、自分から発表したり書いたりしている	65.5	お子さんは、自分の考えを伝えるために、自分から進んで発表したり書いたりしている	63.5
2	失敗を怖がらないで、いろいろなことに挑戦しようとしている	74.7	お子さんは、失敗を怖がらないで、いろいろなことに挑戦しようとしている	65.0
3	早寝・早起きして、朝ご飯を食べている	74.6	お子さんは、宿題や家庭学習に進んで取り組んでいる	68.3
4	宿題や家庭学習に進んで取り組んでいる	80.0	学校は、タブレットを学習にいかしている	75.4
5	友達の良いところを見つけようとしている	83.5	お子さんは、「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣が身につけている	78.6

また、「自分の考えを伝えること」や「失敗を怖れないこと」については、児童・保護者とも肯定的な回答の割合が低くなっています。これは昨年度も同様な傾向でしたが、「失敗を怖れずに挑戦する」ことについては、児童・保護者とも、肯定的な回答の割合が昨年度より高くなっており、私どもとしましては、改善の兆しが少し見られたかと捉えています。もしかしたら、周りの大人の意識が変わったからかもしれない、とも考えています。以下は昨年度の学校だより2月号とほとんど同じ文章ですが、改めてお伝えしたいと思います。

コロナ禍の影響もあるかもしれませんが、自分を表現することを躊躇う子が増えていると感じています。自分の思いや考えを適切に伝えられること、そして他者の思いや考えを適切に受け止められることは、いつの時代においても必要だと考えます。子ども達に、伝える・受け止める方法を教えていくとともに、安心して自分を表現できるような環境づくりに努めていきたいと考えています。そして、自分がやってみたいことに挑戦する機会を設定し、失敗は学びのチャンスと子ども達が思えるように働きかけていきたいと思っています。ご家庭や地域におかれましても、子ども達が「自分からやりたい、やってみたい」という思いや願いを持てるように励ましていただければ幸いです。挑戦できること・できないこともあるとは思いますが、学びのない失敗をあえてする必要もないかとは思いますが、自分のやりたいことに挑戦する機会を子ども達に与えてくだされば、と思っています。学校でも、そのような機会がつかれるように努めていきたいと考えています。